

〈共同研究〉

国際文化交流機関の評価に関する研究*

— 韓国における国際交流基金 (Japan Foundation) の事業評価調査 —

真鍋 一史^{*1}・岡本 真佐子^{*2}
一寸木 英多良^{*3}・大宮 朋子^{*4}第1部 評価調査の問題関心と調査票設計
のアイデア

1. はじめに

国際交流基金は、日本の国際文化交流を担う専門機関として1972年に設立されたが、2003年には独立行政法人（外務省所管）に移行し、それにもなるとしてその評価の実施が制度的に義務づけられることとなった。いうまでもなく、今回の「評価調査」の実施は、こうした国際交流基金の政府の独立行政法人評価委員会等に対して行なう業務実績報告の一部をなすものとして位置づけられる。しかし「評価調査」の目的は、そのようなAccountabilityの責務を果たすということだけに限定されるわけではない。それを越えたさらに大きな目標がある。それは、国際文化交流機関は、今の時代と社会のなかにあって、どのようなものとしてあらねばならないかについて、実証的な側面からする新しい探究のあり方を示すということである。こうして、今回の「韓国における国際交流基金の事業評価調査」が企画・設計されることとなった。

以上のような、今回の調査研究に至る経緯については、稿を改めて詳述することとし、つぎに今回の「評価調査」のもう一つの独自の意義について述べておきたい。それは、一言でいうならば、「評価研究」における未開拓の問題領域に踏み込む試みという点にある。いうまでもなく「評価研究」はアメリカ合衆国ではすでに半世紀を越える歴史をもっており、日本はこれに大きく後れを取るものの、1990年以降になってアメリカ合衆国での研究成果の紹介を中心に多くの書籍・論文が出てくることとなる。因みに筆者の書斎の書棚をざっと見渡してみただけでも、以下のようなものが目にとまる。

山谷清志 (1997), 『政策評価の理論とその展開—政府のアカウンタビリティ—』, 晃洋書房。
Harty, H. P. (1999), *Performance Measurement: Getting Results*, Urban Institute Press, Washington, D. C. (上野宏, 上野真城子訳 (2004), 『政策評価入門—結果重視の業績測定—』, 東洋経済新報社)。
伊多波良雄 (1999), 『これからの政策評価システム—評価手法の理論と実際—』中央経済社。
大住 荘四郎 (1999), 『ニュー・パブリック・マネジメント—理念・ビジョン・戦略—』, 日本評論社。
島田晴雄, 三菱総合研究所政策研究部 (1999), 『行政評価—スマート・ローカル・ガバメント—』, 東洋経済新報社。

山谷清志 (1997), 『政策評価の理論とその展開—政府のアカウンタビリティ—』, 晃洋書房。

Harty, H. P. (1999), *Performance Measurement: Getting Results*, Urban Institute Press, Washington, D. C. (上野宏, 上野真城子訳 (2004), 『政策評価入門—結果重視の業績測定—』, 東洋経済新報社)。

伊多波良雄 (1999), 『これからの政策評価システム—評価手法の理論と実際—』中央経済社。

大住 荘四郎 (1999), 『ニュー・パブリック・マネジメント—理念・ビジョン・戦略—』, 日本評論社。

島田晴雄, 三菱総合研究所政策研究部 (1999), 『行政評価—スマート・ローカル・ガバメント—』, 東洋経済新報社。

*キーワード：政策・施策・事業、Facet Approach、involvement、attitude、一般、特定

この共同論文は、国際交流基金 (Japan Foundation) 企画評価部によって実施された「韓国における事業評価調査」(2006年2月24日～3月14日)にもとづくものであり、本調査の中間報告書の一部をもとに執筆されたものである。なお、この調査の調査票設計・実査計画・データ解析は「国際文化交流政策論研究会」を中心に進められた。

*1関西学院大学社会学部教授

*2国土館大学21世紀アジア学部教授

*3国際交流基金企画評価部・企画評価課上級主任

*4政策研究大学院大学博士課程

山田治徳 (2000), 『政策評価の技法』, 日本評論社.

龍慶昭, 佐々木亮 (2000), 『「政策評価」の理論と技法』, (改訂版 (2004)), 多賀出版.

小野達也, 田淵雪子 (2001), 『行政評価ハンドブック』, 東洋経済新報社.

大住荘四郎 (2002), 『パブリック・マネジメント—戦略行政への理論と実践—』, 日本評論社.

石原俊彦監修, 監査法人トーマツ (2004), 『新行政経営マニュアル—イギリスのNPM (ニュー・パブリック・マネジメント) に学ぶ—』, 青文社.

田所昌幸, 城山英明 (2004), 『国際機関と日本—活動分析と評価—』, 日本経済評論社.

中井達 (2005), 『政策評価—費用便益分析から包絡分析法まで—』, ミネルヴァ書房.

では、これらの先行研究における問題点あるいは未開拓の領域として、どのようなことがあげられるであろうか。そして、そのような問題点あるいは未開拓性を克服するために、どのような調査票の設計が提案されるであろうか。それがつぎの課題となる。

2. 調査票設計のアイディア

これまでの評価に関する先行研究における問題点としては、少なくともつぎの3点があげられるであろう。

①「評価調査」は、政策 (policy)、施策 (program)、事業 (project) の結果 (あるいは効果) の評価を捉えるというところに焦点を合わせて企画されてきた。政策・施策・事業の「結果」あるいは「効果」という場合、それは政策・施策・事業という人間活動を行なう主体の意図したことが、その政策・施策・事業の対象である客体において実現したかどうか、ということが問われることになる。ところが社会学的視座からするならば、あらゆる人間活動については、主体の意図は必ずしも常に明確なわけではない。また「意図せざる結果」ということもある。意図についてのチェック・リストは必ずしも完全なものではないし、そのような意図をはるかに越えた結果が現れることもある。

②再び社会学的視座からするならば、「効果」と「影響」という言葉の概念的区別が重要な意味をもつことになる。一般に、「効果」は「行為の主体の意図あるいは目標という志向性」において、また「影響」は「行為の客体の関連あるいは意味という関係性」において理解される (真鍋一史『広告の社会学』[増補版]、日経広告研究所、1994年、p.23、p.53)。このような視座からするならば、国際交流基金の意図や目標を離れて、人びとはそれぞれの主体的な目的のために自由に国際交流基金の事業・活動・サービスを利用し、それによって満足を得ているといえるかもしれない。こうして、ここでも「意図せざる結果」が出てくることになる——「意図せざる結果」という用語は、Robert Mertonによって用いられた unintended consequences あるいは unanticipated consequences に由来するものである (森東吾ほか訳『社会理論と社会構造』みすず書房、pp16-21、p.118)。また「利用と満足」という考え方は、Elihu Katzらによって提案されたマス・コミュニケーションの影響研究における分析視座である (Elihu Katz and Michael Gurevitch, *The Secularization of Leisure*, Faber & Faber, 1976, pp.215-243) ——。

③これまでの「評価調査」においては、政策・施策・事業に対する人びとの「満足度」や「重要度」などの意識の側面が中心となっており、それらに対する人びとの「関与度」や「受容度」などの行動の側面には焦点が当てられておらず、また調査票設計にシステマティックな方法が採用されることもなかった。

以上の①②の問題点から、今回の「評価調査」を「問題発見的 (heuristic)」あるいは「探索的 (exploratory)」な試みとして位置づけることの重要性が理解されるであろう。そのような位置づけをしたうえで、今回の「評価調査」では、できるかぎり上述のような側面をも射程に入れて調査票の設計がなされた。

つぎに、③の問題点との関連で、ここでの調査票設計のシステマティックな考え方について述べていく。いうまでもなく、調査のデータ解析は調査票設計と表裏一体の関係にある。調査票設計の際に、すでにしてデータ解析のアイディアと方向

が考慮に入れられる。このアイデアと方向を、ここでは評価調査のための「しかけ」と呼ぶことにする。

さて、そのような「しかけ」は、「調査の仮説的図式」に示されているので、以下においては、この図式を用いて、その「しかけ」について説明していきたい。

ただ、それにさきだって、どうしても述べておかなければならないことがある。それは、今回のような「質問紙調査」をめぐる方法論の問題である。その詳細については、真鍋一史「社会調査と社会学理論——質問紙法による社会分析の革新をめざして——」『先端社会研究』(第3号)、関西学院大学出版会、2005年、pp. 209-235、を参照されたいが、ここでは少なくとも、つぎの点を指摘しておきたい。それは、これまで質問紙調査の結果については、質問項目ごとの回答の分布(frequency)、いいかえれば「単純集計」にのみ焦点が合わされる傾向があったということである。もちろん「単純集計」は重要で、あらゆるデータ解析の出発点であることは間違いない。しかし、人びとの「ものの見方・考え方・感じ方」など、一般に「意識」と呼ばれる人間の現象を捉えようとする「質問紙調査」のデータ解析においては、そのような「単純集計による回答の分布の記述」を越えて、さらに「質問諸項目間の関係の分析」に進むことこそが重要である。それによっ

て、はじめて人びとの意識の「ひだ」が解明されることになるからである。このような人びとの意識の「ひだ」の解明ということは、これまでの評価調査において欠落していた視点の一つであり、今後の重要な分析課題といわなければならない。

さて、「仮説的図式」についての「しかけ」であるが、これは人びとの「意識(ここではオリエンテーションという用語を用いる)」の「対象」——つまり、それが「日本」であるか、それとも「国際交流基金(以下JF)」であるか——と、「内容」——つまり、それがinvolvement(その対象に自分をどの程度かかわらせているかという関与の側面で、温度計などの計器との比喩でいえば、一方の端に0ポイントがあるmeasurement)であるか、それともattitude(その対象に対する好き⇔嫌い、賛成⇔反対、よい⇔わるいなどの意識の方向の側面で、これら両極の中間に0ポイントがあるmeasurement)の2つの側面を組み合わせる構成されている。このような「仮説的図式」にもとづいて、質問諸項目が具体的に選ばれ、そのwording(翻訳を含めて)が検討されるのである。

じつは、このような「仮説的図式」の構成は、social measurementについての先駆的研究者であるLouis Guttmanの考察したFacet Approachの考え方を踏まえたものである。なお、Facet Approachについては、真鍋一史「ファセット：ファセット・デザイン、ファセット・アナリシ

調査の仮説的図式

オリエンテーション の対象 オリエンテーション の内容	日 本	国際交流基金 (JF)
Involvement	Q2 日本体験 Q3 日本情報 Q4 日本関心 Q5 日本について知っているか	Q9 訪問・利用機関 Q10 JFを知っているか Q11 JFイメージ Q12 JF情報 Q14(A) JF事業・活動に対する関心 Q15 JFコンタクト経験および JF事業・サービス利用経験 Q16(A) JFコンタクト Q17 JF事業・活動参加
Attitude	Q6 日本イメージ Q7 日本人イメージ Q8 日本は好きか	Q13 JFの活動は役立っているか Q14(B) JF事業・活動に対する評価 Q16(B) JFコンタクト満足

ス、ファセット・セオリー』『ファセット理論と解析事例』ナカニシヤ出版、2002年、pp. 1-12、および真鍋一史『社会・世論調査のデータ解析』慶応義塾大学出版会、1993年、を参照されたい。

では、このような Facet Approach を踏まえた「仮説的図式」の基本的なアイデアがどのようなものかという点、それはいわゆる「実験計画法」の考え方と軌を一にするものである。具体的にいうならば、それは質問紙調査のデータ解析の焦点を「質問項目に対する回答の分布の記述」から「質問諸項目間の関係の分析」へと移していく場合に、その関係の分析は、そこで分析される2つ（あるいは3つ以上——この場合は、多変量解析法が用いられることになるが、そこでも基本的な考え方は同様である——）の質問項目の①「対象」が同じで「内容」が異なるケース——たとえば、いずれもその対象が日本についての質問で、しかしそれぞれ日本についての involvement と attitude の質問というようにその内容が異なるケース——か、あるいは②「内容」が同じで「対象」が異なるケース——たとえば、いずれもその内容が involvement の質問で、しかしそれぞれその対象が日本と JF というように異なる質問のケース——においてのみ意味がある（つまり、「対象」も「内容」も異なる、というようなケースにおいては意味がない）という考え方である。

では、質問項目間の関係の分析を行なう場合、なぜこのような考え方をしなければならないのであろうか。それは、いうまでもなく、「対象」と「内容」の両方が異なる、というケースにおいては、それら2つの質問項目間の関係を分析しても、その分析の結果がいずれの要因によってもたらされたものであるかを判断することが不可能になってしまうからである。

ここで「仮説的図式」をより簡便な形で示すならば、つぎようになる。

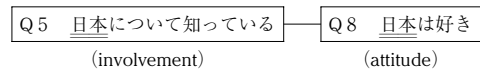
	オリエンテーションの対象	
	日本	JF
オリエンテーションの内容		
Involvement	I	III
Attitude	II	IV

さて、JF の事業・活動・サービスの評価を調

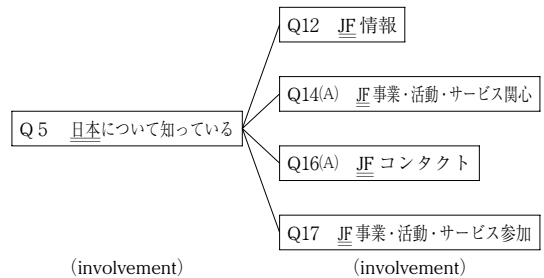
査するという場合、一般的にはⅣの領域の質問項目が準備されることになる。それが、直接的な評価項目であることは間違いない。しかし、それらの項目のみで評価調査を進めるならば、そのような評価研究はきわめて視野の狭いものとなってしまふ。そこで、今回の評価調査では、その企画の段階において、Ⅳの領域の質問諸項目の分析を、さらに広く、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの諸領域の質問諸項目との関連において進めていくというアイデアを採用したのである。そのようなアイデアを以下において、より具体的に説明していきたい。

すでに述べたように、「仮説的図式」の縦の枠内の項目どうしの関係の分析、あるいは横の枠内の項目どうしの関係の分析は意味のある分析といえるが、斜めの枠内の項目どうしの関係の分析は意味のある分析とはいえない。こうして、今回の調査では以下の4種類の仮説にもとづいて、4種類の諸項目群間の関係の分析がデザインされる。

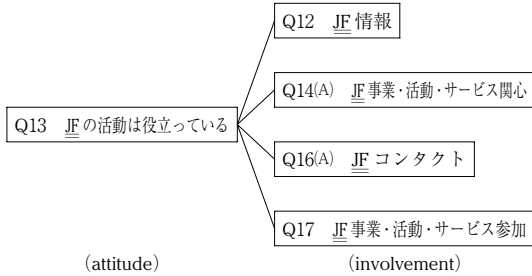
(1) 「Ⅰの領域の諸項目」と「Ⅱの領域の諸項目」との関係の分析（←仮説①「日本に対する『認知度・関与度』が高まるとともに、日本に対する『好感度・評価度』が高まる。」）



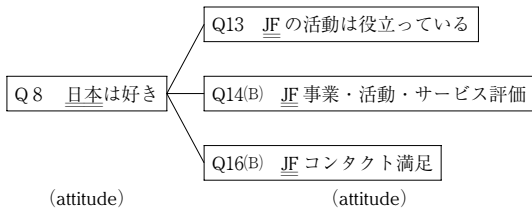
(2) 「Ⅲの領域の諸項目」と「Ⅰの領域の諸項目」との関係の分析（←仮説②「JF に対する『認知度・関与度』が高まるとともに、日本に対する『認知度・関与度』が高まる。」）



(3) 「Ⅲの領域の諸項目」と「Ⅳの領域の諸項目」との関係の分析（←仮説③「JF に対する『認知度・関与度』が高まるとともに、JF に対する『好感度・評価度』が高まる。」）



(4) 「Ⅳの領域の諸項目」と「Ⅱの領域の諸項目」との関係の分析 (←仮説④「JFに対する『好感度・評価度』が高まるとともに、日本に対する『好感度・評価度』が高まる。」)



以上が、今回の評価調査の質問紙作成に際して考慮された「しかけ」の一部である。つまり、ここでは、JFの韓国における事業・活動・サービスの評価を捉えようとする場合、Ⅳの領域の質問諸項目によって、人びとのJFの事業・活動・サービスへの直接的な評価を測定するとどまらず、JFへの「かかわり合い」とおして、一方でそれが契機となって日本への「かかわり合い」の機会がもたらされるとともに、他方でそれによって日本への「ポジティブな意識」が生まれてくるというストーリーを仮説的に考えているのであり、そのような仮説こそがいわばJFの事業・活動・サービスの間接的な評価につながるものにほかならない。こうして、そのような仮説の検証(つまり、質問諸項目間の関係の測定)を視野に入れた分析を行なうのである。

ここで、再び注意しておかなければならないのは、以上の諸仮説が「～高くなるほど～高くなる」という因果命題の形で表現されているにもかかわらず、これら諸仮説の検証をねらってなされるデータ解析では「相関係数」の算出という方法が用いられるという点である。今回のデータ解析では、われわれは「相関関係の確認をとおして、因果関係を推論する」(安田三郎『社会調査ハン

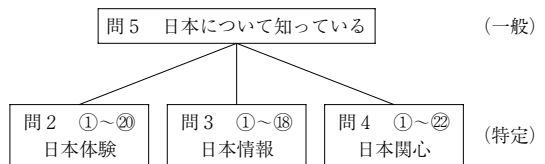
ドブック』有斐閣、1960年、p.16) という方法的な考え方に立っているのである。

さて、ここで、「調査の仮説的図式」に示した評価調査の「しかけ」について、もう少し詳細に説明しておきたい。この「仮説的図式」が、人びとのオリエンテーションの「対象—つまり、JFと日本—」と「内容—つまり、involvementとattitude—」を組み合わせて構成されたものであるということはすでに述べた。そこで、つぎに、なぜオリエンテーションの対象として「JF」と「日本」を選び、また、なぜその内容として「involvement」と「attitude」を選んだかについても説明しておかなければならない。

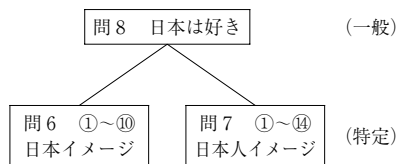
まず、前者の側面については、JFの事業・活動・サービスの目的が「我が国に対する諸外国の理解を深め、国際相互理解を増進する」(独立行政法人国際交流基金法第3条) ことにあることを考えるならば、調査における評価項目として、「JFという特定の対象に関する項目」と「日本という一般的な対象に関する項目」が選ばれた理由は、ただちに理解されるであろう。

この「一般的な対象」と「特定の対象」という軸(次元)の考え方については、今回の調査票設計においては、日本とJFという側面で用いられているだけではなく、さらに以下のように、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳのそれぞれの領域内の諸項目についても同様の考え方が採用されているのである。

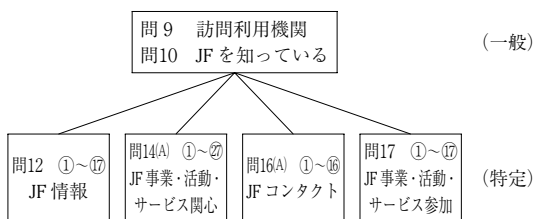
(1) Ⅰの領域



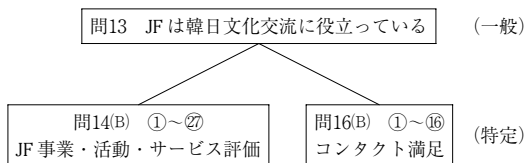
(2) Ⅱの領域



(3) IIIの領域



(4) IVの領域



今回の評価調査で、以上のような「一般」⇔「特定」という軸を設定したのは、いうまでもなく両者の間にはどのような関係が見られるであろうか、といった問題関心があったからである。日本では、古くから「坊主（一般）憎けりゃ、袈裟（特定）まで憎い」ということわざがあるが、逆に「坊主（一般）好きなら、袈裟（特定）まで好き」といういい方も成り立つかもしれない。このような心的構造が、今回の韓国調査においても捉えられるかどうかといったことは、きわめて興味深い分析課題といえよう。

つぎに、後者の側面については、これまで質問紙調査という方法を用いて抽出されてきた人びとのオリエンテーションの内容としては、involvementとattitudeのほかにも、closure、normなどの諸次元がある。にもかかわらず、ここでinvolvementとattitudeという2つの次元のみを取りあげたのは、この2つの次元が評価調査においてきわめて重要な位置を占めるものである

と考えるからにはほかならない。しかし、だからといって、ほかの次元に意味がないというのではなく、そのような諸次元についての探究も、今後に残された重要な課題であることはいうまでもない。

最後に、今回の評価調査のデータ解析におけるもう一つのアイデアについても、説明しておきたい。それは、すでに述べたI、II、III、IVの諸領域のすべての質問項目について、それらをscaleを構成するものとして用いるか、それともpatternを構成するものとして扱うか、ということである。scaleとpatternについてはさまざまな定義があるが、「多次元のことをpattern、1次元のものをscaleと呼ぶ」（飽戸弘『社会調査ハンドブック』日本経済新聞社、1987年、p.98）のが一般的な考え方といえる。

そこで、今回の質問項目を用いて、この2つの行き方をより具体的に説明しておこう。たとえば、問3では、「あなたは日本についての情報や知識をどこから入手していますか」と尋ねて、新聞記事、テレビ番組、インターネットなど18の選択肢をあげている。scaleの方法は、回答者ごとにそれら選択肢につけられた○の数を数えて、それを0～18までのscale上に位置づけていくというやり方であり、それに対してpatternの方法は、これら選択肢を、たとえば「印刷メディア」「電波メディア」「ニューメディア」「インターネット・コミュニケーション」などにグループ化して、カテゴリ変数として分析していくやり方である。いうまでもなく、これら2つの方法にはそれぞれ一長一短がある。これらは、データ解析の問題関心に合わせて、「問題発見的」あるいは「探索的」に使用されることが望まれるのである。

(真鍋一史)

調 査 票

<挨拶の言葉>

こんにちは。

私は韓国ギャラップ調査研究所で面接員として働いている〇〇〇です。今回われわれの調査研究所では国際文化交流に関して意見をお伺いしています。

私がお伺いする質問は正解・不正解というものではなく、〇〇様の意見は、『このような意見を持っている人々は何パーセント（％）いる』というふうに統計を出すためだけに使用され、その他の目的以外には、絶対使用されることはありませんので、お考えをそのままおっしゃってください。

お時間を割いていただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

面接員：問1～問17まで該当番号に○をつけること。

該当する項目のない場合には、「その他」欄に具体的な内容を記入すること。（ただし、問16の1に○をつける場合、具体的な項目を聞いた後、回答によって□にもチェックをすること）全ての項目に関して漏れなく回答をもらうこと。

区分

1. 一般人
2. 国際交流基金利用者

問1. 〇〇様は今年満何歳になられますか。誕生日を考慮せず、韓国式の歳から1歳引いた満年齢でお答えください。

満（ ）歳

→18歳以上の場合、続行

→17歳以下の場合、感謝の挨拶の後に面接終了

日本についての体験・経験についてお尋ねします。

(面接員：項目カード提示)

問2. 日本について体験・経験されたことのある項目すべてを選んでください。【複数回答】

(該当する項目がない場合は具体的な内容をおっしゃってください。)

1. 日本の製品や商品を購入したことがある
2. 日本の料理屋・レストラン・居酒屋・パブ・バーなどで飲食をしたことがある
3. 日本に関する展覧会・公演・講演会などに行ったことがある
4. 日本の航空会社を利用したことがある
5. 日本企業・日系企業で働いていたことがある
6. 日本企業・日系企業と取引をしたことがある
7. 日本人作家の本を読んだことがある
8. 日本の雑誌を読んだことがある
9. 日本映画・テレビ番組・アニメ・漫画を見たことがある
10. 日本の音楽・歌謡・民謡を聴いたことがある
11. 学校の授業・講義で日本のことを学んだことがある
12. 日本語を学んだことがある
13. 日本人の友人・知人がいる
14. 仕事で日本に行ったことがある (駐在を含む)
15. 観光で日本に行ったことがある
16. 留学で日本にいったことがある
17. 反日デモに参加したことがある
18. 韓日の過去の歴史に関する博物館や記念館 (例. 独立記念館、西大門刑務所跡など) に行ったことがある
19. 日本の柔道、華道、茶道、剣道などを習ったことがある
20. 日本の団体が主催した日本歌謡の「のど自慢」に参加したことがある・「のど自慢」を見に行ったことがある
21. その他 { 具体的に： }

日本についての情報や知識の入手方法についてお尋ねします。

(面接員：項目カード提示)

問3. あなたは普段、日本についての情報や知識をどこから入手していますか。次の中の当てはまるものすべてを選んでください。【複数回答】(該当する項目がない場合は具体的な内容をおっしゃってください。)

1. (印刷された) 新聞記事
2. インターネット新聞
3. 雑誌記事
4. 本
5. テレビ番組
6. ラジオ番組
7. 新聞・雑誌の広報・広告
8. テレビ・ラジオの広告 (コマーシャル)
9. 劇場映画
10. ビデオ・DVD
11. インターネット
12. 日本の政府・政府関連機関の広報誌
13. 日本料理屋・レストランなどに置かれている情報誌
14. 学校の授業・教科書
15. 家族・親族から聞いて
16. 友人・知人・職場の同僚から聞いて
17. 在韩国日本大使館 (領事館、日本文化院 (公報文化院) を含む)
18. 国際交流基金ソウル日本文化センター
19. その他 { 具体的に：

{

}

日本への関心についてお尋ねします。

問 4. あなたは日本の事柄についてどの程度関心がありますか。次の各項目別にお答えください。
 (該当する項目がない場合は具体的な内容をお答えください。)

日本の事柄	関 心			
1. 音楽・歌謡・民謡	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
2. 美術・絵画	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
3. 伝統芸能（歌舞伎、能など）	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
4. ファッション	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
5. 映画・テレビ番組・アニメ・漫画	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
6. 文芸	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
7. コンピューターゲーム・ビデオゲーム及びゲーム機	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
8. スポーツ	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
9. 流行	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
10. タレント・歌手・俳優	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
11. 食べ物・飲み物・料理	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
12. 商品・製品	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
13. 自然・地理	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
14. 名勝・古跡地	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
15. 科学技術	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4

16. 社会・生活・風習	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
17. 経済・産業・企業	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
18. 政治・外交・国際関係	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
19. 歴史	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
20. 宗教	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
21. 日本語	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
22. 韓国との関係	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4
23. その他 具体的に： }	とても 関心がある 1	まあ 関心がある 2	あまり 関心がない 3	全く 関心がない 4

問5. あなたは日本について、どの程度知っていると思いますか。

1. とてもよく知っている、2. まあ知っている、3. あまり知らない、4. 全く知らない、の中から選択してください。

とても
よく知っている
1

まあ
知っている
2

あまり
知らない
3

全く
知らない
4

日本に対するイメージについてお尋ねします。

(面接員：項目カード提示)

問6. あなたは日本に対してどのようなイメージを持っていますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。【複数回答】

1. 経済力・技術力の高い国
2. 警戒を要する国
3. 民主的な国
4. 理解しにくい国
5. 自然の美しい国
6. 好戦的な国
7. 平和な国
8. 豊かな伝統と文化を持つ国
9. 欧米志向の国
10. 信頼できる国

(面接員：項目カード提示)

問7. 日本人はどのような特性を持つと思いますか。次の中からあてはまると思うものすべてを選んでください。【複数回答】

1. 勤勉である
2. 計算高い
3. 礼儀正しい
4. 尊大である
5. 人まねする
6. 創造的である
7. 団結心が強い
8. 攻撃的だ
9. 従順である
10. 信義に欠ける
11. 思いやりがある
12. 何を考えているかよく分からない
13. 能率的である
14. 閉鎖的である

問8. 日本が好きですか、嫌いですか。1. とても好き、2. まあ好き、3. どちらとも言えない、4. やや嫌い、5. とても嫌い、の中から選択してください。

とても 好き	まあ 好き	どちらとも 言えない	やや 嫌い	とても 嫌い
1	2	3	4	5

利用したことのある機関についてお尋ねします。

(面接員：項目カード提示)

問9. 次の中から、あなたがこれまで訪問したり利用したりしたことのある機関すべてを選んでください。【複数回答】

1. 国際交流基金ソウル日本文化センター
2. 在韓国日本大使館
3. 日本文化院 (公報文化院)
4. 英国文化院
5. ドイツ文化院
6. フランス文化院
7. 中国文化院
8. 財団法人 日韓文化交流基金
9. 日本貿易振興会 (JETRO) ソウルセンター
10. 日本国際観光振興機構 (JNTO) ソウルセンター
11. 日本学生支援機構 (JASSO) ソウル日本留学情報センター
12. 日本自治体国際化協会 (CLAIR) ソウル事務所
13. ソウル・ジャパン・クラブ (SJC)
14. 裏千家ソウル出張所

国際交流基金についてお尋ねします。

問10. 国際交流基金というのを知っていますか。

1. 知っている
2. 知らない

—————▶ (面接員：問 D1 資料分類用質問へ進むこと)

問10でく1. 知っている」と答えた方にお尋ねします。

問11. 国際交流基金について、知っていることやイメージすることがありましたらどのような内容でも自由におっしゃってください。

{

}

(面接員：項目カード提示)

問12. あなたは国際交流基金についての情報や知識をどこから入手しましたか。

次の中からあてはまるものすべてを選んでください。【複数回答】

(該当する項目がない場合は具体的な内容をおっしゃってください。)

1. (印刷された) 新聞記事
2. インターネット新聞
3. 雑誌記事
4. 本
5. テレビ番組
6. ラジオ番組
7. 新聞・雑誌の広報・広告
8. テレビ・ラジオの広告 (コマーシャル)
9. インターネット
10. 日本の政府・政府関連機関の広報誌
11. 日本料理屋・レストランなどに置かれている情報誌
12. 家族・親族から聞いて
13. 友人・知人・職場の同僚から聞いて
14. 大学や学校の先生から聞いて
15. 在韩国日本大使館・領事館
16. 日本文化院 (公報文化院)
17. 国際交流基金ソウル日本文化センター
18. その他 (具体的に：)

(面接員：項目カード提示)

問13. 韓日の文化交流に国際交流基金の活動が役に立っていると思いますか。1. とても役に立つ、2. まあ役に立つ、3. どちらとも言えない、4. あまり役に立たない、5. 全く役に立たない、の中から選んでください。

とても
役に立つ
1 _____

まあ
役に立つ
2 _____

どちらとも
言えない
3 _____

あまり
役に立たない
4 _____

全く
役に立たない
5 _____

(面接員：項目カード提示)

問14. 国際交流基金は次のような事業・活動を実施または計画しています。あなたはそれぞれの事業・活動に関心がありますか(A)。また、国際交流基金がそれぞれの事業・活動を行うことをいいことだと思えますか(B)。

国際交流基金の事業・活動	(A) 関 心			(B) 評 価		
1. 韓国の芸術家や知識人、研究者を日本に招聘する	とても 関心がある 1 _____	ある程度 関心がある 2 _____	全く 関心がない 3 _____	よいことだと思 う 1 _____	どちらとも 言えない 2 _____	よいことだと思 わない 3 _____
2. 日本の芸術家や知識人、研究者を韓国に派遣する	とても 関心がある 1 _____	ある程度 関心がある 2 _____	全く 関心がない 3 _____	よいことだと思 う 1 _____	どちらとも 言えない 2 _____	よいことだと思 わない 3 _____
3. 韓国の高校等の教員を日本に招聘する	とても 関心がある 1 _____	ある程度 関心がある 2 _____	全く 関心がない 3 _____	よいことだと思 う 1 _____	どちらとも 言えない 2 _____	よいことだと思 わない 3 _____
4. 日本の高校等の教員を韓国に派遣する	とても 関心がある 1 _____	ある程度 関心がある 2 _____	全く 関心がない 3 _____	よいことだと思 う 1 _____	どちらとも 言えない 2 _____	よいことだと思 わない 3 _____
5. 韓国の青少年（高校生や大学生）を日本に招聘する	とても 関心がある 1 _____	ある程度 関心がある 2 _____	全く 関心がない 3 _____	よいことだと思 う 1 _____	どちらとも 言えない 2 _____	よいことだと思 わない 3 _____
6. 日本の青少年（高校生や大学生）を韓国に派遣する	とても 関心がある 1 _____	ある程度 関心がある 2 _____	全く 関心がない 3 _____	よいことだと思 う 1 _____	どちらとも 言えない 2 _____	よいことだと思 わない 3 _____
7. 韓国人の日本語学習者や日本語教育者に対する日本研修の実施（招聘）	とても 関心がある 1 _____	ある程度 関心がある 2 _____	全く 関心がない 3 _____	よいことだと思 う 1 _____	どちらとも 言えない 2 _____	よいことだと思 わない 3 _____
8. 日本語教育の専門家（日本人）を韓国に派遣する	とても 関心がある 1 _____	ある程度 関心がある 2 _____	全く 関心がない 3 _____	よいことだと思 う 1 _____	どちらとも 言えない 2 _____	よいことだと思 わない 3 _____
9. 日本語教育の実施	とても 関心がある 1 _____	ある程度 関心がある 2 _____	全く 関心がない 3 _____	よいことだと思 う 1 _____	どちらとも 言えない 2 _____	よいことだと思 わない 3 _____
10. 韓国の伝統文化の日本への紹介およびその支援	とても 関心がある 1 _____	ある程度 関心がある 2 _____	全く 関心がない 3 _____	よいことだと思 う 1 _____	どちらとも 言えない 2 _____	よいことだと思 わない 3 _____
11. 韓国の現代文化の日本への紹介およびその支援	とても 関心がある 1 _____	ある程度 関心がある 2 _____	全く 関心がない 3 _____	よいことだと思 う 1 _____	どちらとも 言えない 2 _____	よいことだと思 わない 3 _____

12. 日本の伝統文化の韓国への紹介およびその支援	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと 思う 1	どちらとも 言えない 2	よいことだと 思わない 3
13. 日本の現代文化の韓国への紹介およびその支援	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと 思う 1	どちらとも 言えない 2	よいことだと 思わない 3
14. 文化・芸術団体等の日本公演の実施	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと 思う 1	どちらとも 言えない 2	よいことだと 思わない 3
15. シンポジウムやセミナーの開催	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと 思う 1	どちらとも 言えない 2	よいことだと 思わない 3
16. 日本に関する展覧会や美術展の開催	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと 思う 1	どちらとも 言えない 2	よいことだと 思わない 3
17. アジアに関する展覧会や美術展の開催	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと 思う 1	どちらとも 言えない 2	よいことだと 思わない 3
18. 韓国の映画の日本への紹介	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと 思う 1	どちらとも 言えない 2	よいことだと 思わない 3
19. 日本の映画の韓国への紹介	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと 思う 1	どちらとも 言えない 2	よいことだと 思わない 3
20. 日本語書籍の韓国語への翻訳の助成	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと 思う 1	どちらとも 言えない 2	よいことだと 思わない 3
21. 韓国における日本研究に対する協力や助成	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと 思う 1	どちらとも 言えない 2	よいことだと 思わない 3
22. 韓国における韓日を含む多国間比較研究に対する協力や助成	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと 思う 1	どちらとも 言えない 2	よいことだと 思わない 3
23. 日本研究を行う韓国人に対する奨学金	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと 思う 1	どちらとも 言えない 2	よいことだと 思わない 3
24. 韓日を含む多国間比較研究を行う韓国人に対する奨学金	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと 思う 1	どちらとも 言えない 2	よいことだと 思わない 3
25. 図書館サービス	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと 思う 1	どちらとも 言えない 2	よいことだと 思わない 3
26. 国際交流基金のパンフレットによる情報の提供	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと 思う 1	どちらとも 言えない 2	よいことだと 思わない 3
27. インターネットによる国際交流基金の紹介およびそのイベント情報の発信	とても 関心がある 1	ある程度 関心がある 2	全く 関心がない 3	よいことだと 思う 1	どちらとも 言えない 2	よいことだと 思わない 3

問15. あなたはこれまで、国際交流基金にコンタクト（訪問、問合せ、インターネットでのアクセスなど）をしたことがありますか。または国際交流基金の事業に参加したりそのサービス（図書館など）を利用したことがありますか。

- 1. ある
- 2. ない

面接員：問 D1 資料分類用質問へ進むこと

(面接員：項目カード提示)

問16. 次の中から、コンタクトをした目的としてあてはまる番号すべてを選んでください。またその場合、その目的や期待はそれぞれどの程度満たされたか、1. とても満足、2. まあ満足、3. どちらとも言えない、4. やや不満、5. とても不満、の中から選択してください。(該当する項目がない場合は具体的な内容をおっしゃってください。)

コンタクトした目的	満 足				
<p>1. 日本に関する情報や資料を入手するため</p> <p>{ 1 を選択した場合、次の各項目を聞いた後、該当する□にチェックを入れること。 }</p> <p>どんな情報や資料でしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 日本研究に関する文献・資料 <input type="checkbox"/> 日本の生活文化に関する文献・資料・雑誌 <input type="checkbox"/> アニメ・映画などのビデオ・DVD <input type="checkbox"/> 漫画 <input type="checkbox"/> 日本の商品・製品に関する情報 <input type="checkbox"/> 日本語教育の教材 <input type="checkbox"/> 日本留学に関する情報 <input type="checkbox"/> 日本での就職に関する情報 <input type="checkbox"/> 観光に関する情報 <input type="checkbox"/> その他 <p>具体的に： {</p>	<p>とても満足 1</p>	<p>まあ満足 2</p>	<p>どちらとも言えない 3</p>	<p>やや不満 4</p>	<p>とても不満 5</p>
<p>2. 日本に関する一般的な相談・問合せ</p>	<p>とても満足 1</p>	<p>まあ満足 2</p>	<p>どちらとも言えない 3</p>	<p>やや不満 4</p>	<p>とても不満 5</p>
<p>3. 日本関連の催しについての情報を得るため</p>	<p>とても満足 1</p>	<p>まあ満足 2</p>	<p>どちらとも言えない 3</p>	<p>やや不満 4</p>	<p>とても不満 5</p>

4. 国際交流基金主催の催しに参加するため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	やや不満 4	とても不満 5
5. 映画を観るため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	やや不満 4	とても不満 5
6. 日本語学習のため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	やや不満 4	とても不満 5
7. 日本語を話す場所として	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	やや不満 4	とても不満 5
8. 日本人と出会うため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	やや不満 4	とても不満 5
9. 異分野の人々との出会いを求めて	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	やや不満 4	とても不満 5
10. 日本の新聞や雑誌を読むため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	やや不満 4	とても不満 5
11. 文化交流活動に対する助成を受けるため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	やや不満 4	とても不満 5
12. 奨学金を得るため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	やや不満 4	とても不満 5
13. 文化交流活動に関する助言を受けるため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	やや不満 4	とても不満 5
14. 日本の芸術・学術分野の人・団体・機関を紹介してもらうため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	やや不満 4	とても不満 5
15. 日本の芸術・学術分野の人・団体・機関を招聘するための仲介を依頼するため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	やや不満 4	とても不満 5
16. 日本において文化活動を行う場所・連絡先を紹介・仲介してもらうため	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	やや不満 4	とても不満 5
17. その他 { 具体的に： }	とても満足 1	まあ満足 2	どちらとも言えない 3	やや不満 4	とても不満 5

(面接員：項目カード提示)

問17. 次の国際交流基金関連事業・活動の中から、あなたが実際に参加・鑑賞・関係したことがあるものすべてを選んでください。【複数回答】

1. 日本の伝統工芸展・人形展
2. 日本の現代グラフィックデザイン展・ポスター展
3. 日本の現代美術展
4. 日本映画・アニメーションの上映会
5. 日本の現代舞踊公演
6. 日本語講座
7. 日本語教師研修事業
8. 日本語能力試験
9. 日本語弁論大会
10. 日本に関する講演会
11. 日本あるいは韓日関係に関する国際学術会議
12. フェローシップ
13. 韓日の市民団体（NPO）交流事業
14. 韓日の青少年・学生交流事業
15. 韓日を含むアジアの漫画展
16. 韓日を含むアジアの現代美術展
17. ソウル日本文化センター図書館の利用
18. その他（)

ここまで質問にお答えくださり、誠にありがとうございました。最後に、資料分類のために、さらにいくつかのことをお尋ねします。これらの項目は統計的な資料分類以外に使用しないことをお約束します。

D1. あなたの性別は何ですか。(聞かずに記録すること)

1. 男 2. 女

(面接員：項目カード提示)

D2. あなたの現在の職業は何ですか。

1. 農業／水産業／畜産業（家族従事者含む）
2. 自営業（従業員9名以下の小規模業所主人及び家族従事者、薬局、個人タクシー運転士）
3. 販売／サービス職（商店店員、セールスマン、保険設計士 等）
4. 技能／熟練工（建設重機／トラック運転士、電子／家電製品、A/S技術者、熟練工 等）
5. 一般作業職（土木関係の現場作業、清掃、守衛、肉体労働 等）
6. 事務／技術職（一般会社の事務職、技術職、幼稚園／小／中／高等学校教員、会社に所属しているウェブデザイナー、コンピュータープログラマー 等）
7. 経営／管理職（5級以上の高級公務員、校長、企業体部長以上の職位 等）
8. 専門／自由職（大学教授、弁護士、芸術家、宗教者、言論人、高所得フリーランサー、医者、デザイナー／プログラマー 等）
9. 家庭主婦
10. 学生（中学生／高等学生／大学生／大学院生）
11. 無職
12. その他（ ）

D3. あなたの住んでいる地域はどこですか。(聞かずに記録すること)

()市 ()区

D4. 学校はどこまで終えられましたか。

1. 中学校卒業
2. 高校卒業
3. 大学在学
4. 大学卒業
5. 大学院在学
6. 大学院修了以上
7. その他（ ）

(面接員：次の説明文を読んでから、パンフレットの提示後面接終了)

最後に、本調査は「国際交流基金（The Japan Foundation）」という日本と海外各国との文化交流を実施している日本の公的機関の依頼を受け、韓日文化交流全般および国際交流基金が実施している韓日交流事業について、皆様の意見をお尋ねしたものです。「国際交流基金」に関するパンフレットを差しあげますので、具体的な内容をお知りになりたい場合には、パンフレットを参考にしてください。ありがとうございました。

Study on Evaluation of International Cultural Exchange Organizations: Evaluation survey of Japan foundation operations in South Korea

ABSTRACT

The Japan Foundation was established in 1972 as a specialized agency promoting international cultural exchange between Japan and other countries. In 2003, it became an independent administrative institution (under the jurisdiction of the Ministry of Foreign Affairs) and, at the same time, the systematic implementation of an evaluation process became mandatory. Implementation of an "Evaluation Survey" forms part of the process whereby the performance of the Japan Foundation is reported to the governmental committee responsible for evaluating independent administrative institutions and other similar entities.

The purpose of the Evaluation Survey, however, is not limited to the fulfillment of responsibilities related to accountability. There is a greater purpose. It is to express, from an empirical perspective, a new form of exploration used to establish what kind of entities international cultural exchange organizations should be at this time in the context of contemporary society. This point was incorporated in the questionnaire used for the Evaluation Survey.

One more important meaning that can be attached to this Evaluation Survey is that it acts as a proposal for new methodology used in this area of research. This can be summarized by the following two points:

1. We characterized this Evaluation Survey as either a heuristic or exploratory endeavor.
2. We employed a systematic method based on the Facet Approach in the questionnaire design.

In addition to commenting on the hypothetical framework of the survey, which is constructed by interest in the above issues, we made suggestions about the future direction of data analysis.

Finally, we have added the Source (or Master) Language Questionnaire for this Evaluation Survey as an appendix.

Key Words: policy, program, project, Facet Approach, involvement, attitude, general, specific